

通路を起因物（小）とする死亡災害事例（1999-2020年）

年	月	発 生 時	死亡災害事例	業種 (小) コード	事故 の型 コー ド	労働 者規 模
1999	3	13 ～ 14	圧延機ローラーを取り付ける台の鋳造型作業で、天井クレーンを操作していた者が定盤から高さ3.3mのピット下に墜落した。	11001	1	300 ～
1999	3	3 ～ 4	倉庫にある麦の乾燥設備取り外し工事現場において、作業が終了して後片付けを行っていたときに体勢を崩して転倒し、倉庫の床に置いてあった角パイプに後頭部を打ちつけた。	30309	2	1～9
1999	4	13 ～ 14	砕石プラント内で砕石クラッシャーの清掃作業を行っていて、作業箇所を移動したときに通路より7.4m下に墜落し被災した。	20201	1	10～ 29
1999	3	9 ～ 10	ビル清掃員が、出勤してきた同ビルテナントの社員に12階エレベーター前廊下で右側頭部を床に付けて倒れているところを発見された。	150101	2	10～ 29
1999	8	10 ～ 11	一輪車に生コンクリート約30キログラムを積んで勾配約20～24度のコンクリート坂道を後向に運んでいたときに、足を滑らし道の端より約4.1メートル下に一輪車とともに転落した。	30199	1	10～ 29
1999	9	10 ～ 11	高炉修復工事の準備作業として、屋外作業通路に照明設備の取り付け作業を行っていて鉄製通路の床を踏みぬき、約9m下の地上に墜落した。	30309	1	30～ 49
1999	9	19 ～ 20	現場事務所として借りているマンション3階の共有通路から1.1mの高さの柵を越えて真下の地面に転落した。	30105	1	1～9

2000	3	17 ～ 18	現場での作業を終え日報を書くため駐車場から事務所に向かって歩行中に、転倒して頭部を強打した。	30202	2	10～ 29
2000	9	20 ～ 21	荷受け先でトラックに積込みが終り荷台から2段重ねのパレットの上に飛び降りた(約1m)ときに、着地でバランスを崩して仰向けに転倒し、頭部を強打した。	40301	3	1～9
2000	3	13 ～ 14	民家裏の治山工事現場において、不整地運搬車でブロック設置箇所からブロックを取りに民家敷地内をバックで走行中に民家の角に接触し、反対側の既存のコンクリートブロック法面を転落(約4m)した。	30108	1	1～9
2000	2	19 ～ 20	新聞代集金のため夜間に自宅を徒歩で出かけて行方不明となったため、翌日に近所の人と集金した家の周辺を搜索したところ、市道脇の側溝で死亡しているのを発見した。	80205	1	50～ 99
2000	6	10 ～ 11	神社新築工事において、屋根作業を中断して資材の買い出しに行こうとして脚立を降りたときに口から血を流しているのが発見された。(外傷性クモ膜下出血)	30202	2	1～9
2000	9	21 ～ 22	駐車場ビルの巡回中、トランシーバーでの定常連絡が屋上駐車場からを最後に途絶えたので他の警備員が確認に行ったところ、屋上駐車場で意識を失って倒れているのを発見した。(頭蓋骨骨折による脳挫傷)	170201	2	10～ 29
2000	11	18 ～ 19	工事現場で後片付け作業中に者の姿が見えなくなったので捜していたところ、駐車場から作業場所へつながる通路横の側溝に倒れていた。	30201	1	10～ 29
2000	5	9 ～ 10	産業廃棄物処分場において、ドラッグショベルで地下焼却炉ピット内の焼却灰を除却する作業をされていていったん運転席を降り再度運転席へ戻る途中、ピットの可動式蓋のレール(高さ34cm)を乗り越えようとして左足がレールに引っかかりバランスを崩して転倒し、顔面を強打した。	150102	2	10～ 29
		13	道路改良工事において、鉄筋挿入工(アンカー工)の施工を開始するため			10～

2000	12	～	油圧ユニットの始動状況を確認するため移動中に、足場通路より	30106	1	29
	14		4. 45m下に墜落した。			
2001	1	11	病院建屋(鉄筋コンクリート造、4階建)の屋上に設置されている空調屋	11702	1	1～9
		～	外機の修理作業のため屋上に上っていて、屋上の端から墜落した。			
		12				
2001	1	23	ガソリンスタンドの深夜アルバイトが終了し、スタンドの奥にある洗	80204	2	30～
		～	濯機置場に向かっているときに足を滑らせ転倒し頭部を強打した。			49
		24				
2001	5	9	排水路付替工事現場において、バックホーを移動させるため路肩に敷	30110	3	10～
		～	き込んである鉄板を斜めに横切る形でバックしたところ、キャタピ			29
		10	ラーが敷鉄板の端を噛んだため敷鉄板が跳ね上り、鉄板上にいた者が			
			地面の上に落下した。			
2001	6	11	キャリアダンプ(ハンドガイド式運搬車)でコンクリートブロックを設置	30199	10	1～9
		～	箇所運搬し、再び積込場所に引返す途中の作業通路上でキャリアダ			
		12	ンプを180度方向転換させようとしたときに、作業通路の端から約25m			
			下のダム湖に転落し溺死した。			
2001	7	19	港に係留中の船舶の修理作業で、甲板上で休憩していたときに夕食を	11501	1	1～9
		～	買って来た事業主がクレーンハウジング上に上がってくるように声を			
		20	掛けたので、クレーンハウジングに上がる途中3.05m下のクレーン取			
			付台に墜落した。			
2001	7	11	擁壁の上部斜面で草刈作業中に気分が悪くなり手すりがない通路(幅	30199	1	10～
		～	36cm、高さ約2.2m)に腰掛けて休憩していたところ、タオルが地上に			29
		12	落ち地上にいた作業員がタオルを拾って近くに投げ返してくれたので			
			拾うため立ち上がったときに、通路から地上にスローモーションのよ			
			うに頭から墜落した。			
2001	12	14	橋脚上での橋桁取付作業中に、工具を取りに棧橋にある倉庫まで行っ	30105	10	10～
		～	てその帰りに仮設通路から橋脚上に渡された橋桁へ移ろうとしたと			29
		15	き、足を踏み外して約4m下の川に墜落し、溺れた。			

2001	12	10 ～ 11	高さ約11m、直径約5mの立坑(電力用鉄塔の基礎部分)内で地ならし作業が終了し、坑外に出るため土止め用ライナープレートに取付けた鋼製の昇降梯子を昇っているときに墜落した。	30301	1	30～ 49
2002	3	13 ～ 14	昼休憩が終わって碎石プラントを再始動させる前に、ベルトコンベアー等のプラントの状況を点検するためプラントの架設通路を歩行中、通路の手すりが設けられていなかった箇所から約3.6m下の砂利地面上に墜落した。	20209	1	10～ 29
2002	4	15 ～ 16	橋桁工事用のつり足場に設けられたネット上にボルトが落ちていないかを約41m下の地上から双眼鏡を覗きながらチェックし、橋上にいる現場作業員に携帯電話で連絡していた者から連絡がないので探したところ、海に沈んでいた。	30209	10	300 ～ 499
2002	2	10 ～ 11	楽器店の看板取付工事で、現場の交通誘導員が現場2階にあるトイレに行き、用済み後にトイレから廊下に出る際に転倒し頭と腰を強打した。	170201	2	10～ 29
2002	5	14 ～ 15	埠頭に停泊しているタグボートから注文を受けた船員用具（船内で使用する日用雑貨）の納品に向かい、埠頭で海中に墜落し翌日水死体で発見された。	80201	10	1～9
2002	7	13 ～ 14	水圧バーカーによる木材の皮むき作業で、昼食後に作業を開始したが機械が停止し10分ほど経っても機械が動き出さないのと同僚が見に行ったところ、機械の操作場所から離れたところでコンクリート敷きの地面に仰向で倒れていた。	10409	2	1～9
2002	11	10 ～ 11	駐車場管理人が駐車場入り口付近で血を流して倒れているのを通行人が発見し、病院に移送したが意識は回復せず、外傷性くも膜下出血、急性硬膜下出血、脳挫傷、頭皮裂創で死亡した。	170209	2	50～ 99
2002	6	8 ～ 9	雨が降っていたので会社事務所で待機中に、責任者から近くのコンビニエンスストアで缶コーヒーを買ってくるよう指示され、買いに行つたときにストアのトイレで転倒して頭部を激突した。	30110	2	1～9

2002	12	13 ～ 14	墓地の石垣築造に伴う残土の搬出作業で、ハンドガイド式運搬機に残土を積み、後進で途中まで走行しそこで方向転換を行ったときに、足を側溝に踏み外して転倒し運転していた運搬機に轢かれた。	30199	2	10～ 29
2003	3	4 ～ 5	自転車で新聞配達のアルバイト中、用水路に架かった橋（幅615cm、高さ70から90cm）から墜落した。	80205	17	10～ 29
2003	4	13 ～ 14	緊急地すべり対策として施工した水抜き立坑（立坑掘削後に放射状にボーリングを行い地層間の地下水を抜くもの）の施工終了後、流量等の測定等のために20mの立坑に入り、測定を終えてはしご道を登っているときに転落した。	30199	1	10～ 29
2003	7	13 ～ 14	製紙原料タンクの上縁付近の床（鉄板製）を通行中または作業中に、タンク（深さ約116cm、原料の深さ84cm）の中へ転落し、原料のパルプ等をのどに詰まらせて窒息死した。	10601	1	10～ 29
2003	12	17 ～ 18	宅地造成工事において、現場の清掃等に從事していた者が道路と宅地造成地の間の用水（幅140cm、深さ120cm）に掛けられていた鉄板の橋から転落した。	30199	1	1～9
2004	12	9 ～ 10	屋上内の壁上部への笠木取付作業中、屋上に置かれた笠木を一人で運搬しようとして、強風によりバランスを崩し、笠木とともに墜落した。	30201	1	1～9
2004	10	4 ～ 5	パン工場で操業準備作業を行っていたところ、足を滑らせて転倒した。	10104	2	30～ 49
2004	1	19 ～ 20	回収されてきた宅配用商品容器をローラーコンベアにて上げる作業を行っていた被災者が、コンベアを跨いで反対側へ渡ろうとしたところ、バランスを崩して倒れ、コンベアに激突した。	80401	2	300 ～
2004	5	15 ～	電柱立替工事現場において被災者が交通誘導を行っていた際、高所作業車が次の場所へ移動したため、急いで後を追いかけていたときに転	170201	2	100 ～

		16	倒した。			299
2004	6	18 ～ 19	作業を終了し帰宅準備を終えた後、現場内のドラグ・ショベルに鍵を戻しに行くため現場に戻ろうとして鍵を閉めてあったクロスゲートを乗り越えようとしたところ、ゲート上部でバランスを崩し飛び降り、着地時に下に敷いてあった鉄板で足を滑らせ転倒した。	30201	2	30～ 49
2004	2	6 ～ 7	事業所内の廃水処理場における沈殿槽において、沈殿槽内の水位測定を行おうと移動途中、なんらかの原因で手すりのある既設の通路から墜落した。	170209	1	1～9
2004	6	18 ～ 19	夕刊の配達中、道路上で転倒した。	80205	2	30～ 49
2005	7	16 ～ 17	木造建造物解体後の廃材搬出作業中、転倒した。	30202	2	1～9
2005	2	11 ～ 12	事務所から作業箇所に向かう途中で転倒した。	80409	2	100 ～ 299
2005	10	15 ～ 16	休憩時間中、工場の間を走る水路上に設けられた通路から3m下の水路（水深12cm）に墜落した。	10801	1	30～ 49
2005	4	23 ～ 24	コークス装入コンベヤーの定時点検において、同コンベヤー脇の点検歩道を移動していたところ、鋼製の歩道床を踏み抜き、40m下の熱風管架台の上に墜落した。	11001	1	1000 ～ 9999
2005	5	11 ～ 12	造船所構内で艀装船に横付けした作業用台船に架け渡した通路上を渡っていたところ、5m下の海に墜落し、溺れた。	11501	1	1～9
		12	使用済みサウナマットの入ったキャスター付ガゴを洗濯場へ運搬途			10～

2006	4	13	中、エントランス横のスロープ頂上部から約2.15m下の道路に転落した。	130301	1	29
2006	1	18 ～ 19	客先において、ネットワーク工事完了後、通信機器の確認及び提案パソコンのカタログを入手するため、家電量販店に立ち寄っていたところ、通路にて転倒した。	80109	2	50～ 99
2006	4	23 ～ 24	災害発生場所において巡回警備中、倉庫の荷物積卸しホームより転落した。	170201	1	50～ 99
2006	5	0 ～ 1	タンカー内のポンプルームと呼ばれる箇所で、被災者が倒れているのが発見された。ポンプルームは約21メートルの深さがあり、被災者はポンプルーム内の最も高い箇所に設置された通路から、12メートル65センチメートル下の箇所に設けられたタービンフラットと呼ばれる張り出し床の上に倒れていた。	11501	1	1000 ～ 9999
2006	8	9 ～ 10	鉄骨造倉庫建築工事において、鉄骨材を屋外から鉄骨組立中の屋内へ移動式クレーンにて搬入中、高さ約8mの梁の上で吊り荷の誘導作業を行っていたところ、墜落した。	30201	1	1～9
2006	8	8 ～ 9	中学校校舎の屋根葺き替え作業において、被災者は隣接する建物から作業場所に掛け渡した作業通路を使用して、屋根材である木毛板を運搬していたところ、バランスを崩して軒天井を突き破り、7.7メートル下の地面に墜落した。	30201	1	1～9
2006	5	21 ～ 22	劇場の2階の通路（高さ6.3メートル、有効幅0.92メートル）にて、照明の調整作業中、1階観客席に墜落した。	100109	1	1～9
2006	8	18 ～ 19	寮の委託管理業務を住み込みで行っている被災者は、管理業務の一部である建物内の巡回を行っている途中、1階の廊下で転倒し、体を強く打った。被災後、被災者は自力で管理室に戻ったが、翌日の朝、自宅リビングで倒れている被災者を家族が発見し、病院へ搬送されたが死亡した。	170209	2	1～9

2006	11	6 ～ 7	早出出勤した同僚労働者が、普段であれば出勤している被災者の姿が見えないため不審に思い付近を捜したところ、事業場敷地内の駐車場から約10m下の隣地倉庫裏に墜落している被災者を発見した。	170201	1	10～ 29
2006	8	5 ～ 6	被災者は新聞および情報誌を配達中、一般住宅敷地内において転倒した際にアスファルトの路面に強打した。被災者は転倒後、2件の住宅に新聞等を配達したが、2件目の住宅において家主に救急車を要請し、医療機関に搬送されたが、死亡した。	80205	2	30～ 49
2006	11	20 ～ 21	被災者は工場敷地内土手上で転倒し、約2m下のコンクリートに滑落した。	40301	1	10～ 29
2006	12	16 ～ 17	配達先で木材の束をトラックの荷台から降ろすために、配達先に設置されている天井クレーンを使用して作業していたところ、床コンクリート上に倒れているのを発見された。	80109	2	10～ 29
2007	10	9 ～ 10	被災者は事業場内で歩行中に転倒した。帰宅後に症状が悪化し、死亡した。	10109	2	50～ 99
2007	10	19 ～ 20	2名の作業者が、その日の作業を終了し、搬入口から駐車場に向って徒歩で屋外通路を移動していた。その屋外通路は、手摺が無く、かつ照明の無い真っ暗闇の通路であった。2名が誤って約6m下の河床に墜落し、負傷した。このことを聞いた被災者が、救助しようと屋外通路を歩いていたところ、踏み外して約6m下の河床に墜落した。	30309	1	1000 ～ 9999
2007	2	13 ～ 14	工場内の天井クレーン（5t）が故障し全ての操作ができなくなったため、被災者1人が、ガータの歩道上または走行レール桁上で点検を行っていたところ、約7m下の鉄板敷きの床上に墜落した。	11209	1	1～9
2007	8	19 ～ 20	被災者は船に熱延コイルを積み込むため、積み込みをする第2ハッチに移動していた。通路として使った第1ハッチ内に照明がまったくなく、暗闇の中はしごを降りた際に通路の床を踏み外し、船倉の最下部	50202	1	100 ～ 299



			に転落した。			
2007	6	11 ～ 12	携帯電話基地局の施設内での除草作業中、被災者が持ち場を突然離れたため、作業を指揮していた現場責任者が現場内を探したところ、現場敷地の隅のアスファルトの上で被災者が横になっていた。病院に搬送されたが死亡した。	150109	2	1～9
2007	2	11 ～ 12	豆腐製造工程において、豆乳室の大豆が搬送されるマジックローダー（ホッパー）の清掃を脚立上で行った後、脚立から降りて大豆定量機と生呉（大豆をすり潰したもの）タンクの間を移動中転倒した。	10109	2	100 ～ 299
2007	11	17 ～ 18	被災者は当日の作業を終え、他の現場に配置された同僚を工事現場構内に駐車したワゴン車で待っていた。被災者は、ワゴン車内にいる同僚に「トイレに行く」と声をかけ外へ出た。その後、約3.8m下のスロープ状の敷地内道路に転落しているのが発見された。	30199	1	1～9
2007	9	14 ～ 15	治山工事現場において、谷止工の型枠組立作業中に、鉄筋7、8本（長さ約2m、太さ13mm、重さ約15kg）を肩に担いで谷止め工右岸下流側の法面を谷止め工上部側へ歩いて移動中、バランスを崩して約3mの高さから谷止め工下部に墜落した。	30108	1	10～ 29
2007	11	7 ～ 8	販売所長が店の入口前で自転車と共に倒れている被災者を発見した。被災者は配達を終えて一旦帰宅、誤配の確認のため再度出勤しようとし、店の入口で転倒した。	80205	2	1～9
2007	3	14 ～ 15	天井クレーンによる鋼板水切作業中、被災者はクレーン運転士に用事があったため、自らクレーン操作室まで上がった後、操作室横の通路（高さ13.5m）に佇んでいた。当該通路は運転士の操作室への出入用に設けられた専用通路で、クレーンが移動すると通路の操作席側は墜落防止措置の全くない状態となり、バランスを崩した被災者は通路から墜落した。	50202	1	100 ～ 299
		9	脱硫設備のコンベヤーのプーリーの取り外し作業を終えた後、当該作業中に使用していたコンベヤー横に設置されている通路で通路の鉄板が腐食していると思われる箇所があったため、被災作業者と同僚1名			10～

2007	11	10	で腐食箇所には歩み板を敷き終え、地上に降りようと当該通路を歩いていたら、当該通路の別の箇所の鉄板が腐食していたため、その鉄板を踏み抜き、地上約30mの高さから墜落した。	10804	9	29
2007	2	13 ~ 14	災害復旧工事で崩壊した地山斜面にグラウトアンカー工を施工するための地質調査に使うボーリング機械（重量約100kg）を被災者が小型ドラグ・ショベルでつって作業構台まで運んだ。その直後、被災者は小型ドラグ・ショベルの運転席直下の斜面を林道面まで約11m墜落した。墜落箇所の作業道の幅は約3m、斜面の勾配は約50度であった。	30199	1	1~9
2007	11	13 ~ 14	昼食後一旦事務所に戻った後、事務所前道路に駐車してあった社用車（軽自動車）に乗り込もうとしたところ、転倒し、倒れているところを発見された。	40102	2	30~ 49
2008	1	10 ~ 11	崖の上に設置されてある露天風呂の湯量調整を被災者と同僚で声を掛け合いながら行っていた。作業途中で被災者からの返答がないので不審に思い、床下等を搜索したところ、約60m下の岩場に被災者が倒れているのが発見された。	140101	1	50~ 99
2008	4	20 ~ 21	被災者は、ホテル内レストランにおける調理業務の終了後、帰宅するために厨房から出てホテル建物の外廊下を歩行していた際、吹き込んだ雨で濡れていたコンクリートの通路上で転倒し、死亡した。	140201	2	10~ 29
2009	8	17 ~ 18	焼却設備の煙道保温材に錆による腐食が認められたため、鋼板を巻きつける補修作業中、東側半面のボルトの取付が終了し、西側半面のボルト取付のため、東側歩道を移動し、煙道北側部分より西側の点検台に移動しようとしたところ、誤って足を滑らし、水タンク上部（高さ約7.65m）から地上に墜落した。	150102	1	10~ 29
2009	9	16 ~ 17	大学の研究事業の一環として、小水力発電装置を設置し、小水力発電装置の導水管を点検中、点検通路から5m下の土川の川底へ転落した。	30302	1	10~ 29

2009	8	10 ～ 11	コンクリートミキサー車を使用して生コン工場敷地内に散水するため、ミキサー車のタンクにホースで水を入れる作業中、タンクの水量を確認するためミキサー車後部に近づいたところ、コンクリート床が濡れていたため、足を滑らせて転倒した。	80209	2	1～9
2009	7	11 ～ 12	被災者は、墓地造成のための砂利をハンドガイド式不整地運搬車を使用して運搬作業中、墓地へ行くための通路から不整地運搬車とともに約3m下の溝に墜落した。	30199	1	1～9
2010	1	15 ～ 16	屋内運動場放送室内に設置する電線の引き込み作業のため2階部分で作業を行っていた被災者が作業を終了し、1階へ降りる際、立入禁止となっている放送室上部へ移動した。昇降の際、既設の階段を使用せず立入禁止区域に設置されたはしごより昇降しようとしたため、3.7m下のステージ上へ墜落し被災したものの。	30301	1	1～9
2010	1	12 ～ 13	事業場内で倒れている被災者を同僚が発見し、救急車で病院へ搬送したが、8日後に頭部の負傷により死亡した。災害発生直前、被災者は生コンクリート出荷準備のため、ミキサー車の点検作業を行っていた。被災者が倒れていた場所は床が凍結しており、滑りやすい状況であったことから、転倒したと推測される。	10901	2	1～9
2010	1	11 ～ 12	被災者は、煮沸した豆の充填機のオペレーター補助を行っていたが、昼の休憩前に、機械周りにたまった水を取り除くため、掃除道具（水切り）を道具置き場に取りに行き、戻ってくる途中の通路（水があり滑りやすかった）に於いて転倒し、頭部を強打した。即座に救急車が呼ばれて病院に搬送されたが、翌日死亡した。	10109	2	10～ 29
2010	1	9 ～ 10	在宅型の福祉センター内において、デイサービス利用者を駐車スペースの送迎バスからセンター2階へ誘導する介護業務を行った後、事務室に戻る途中の廊下にて何らかの理由により転倒し被災したものの。災害が発生してから約10ヶ月後に死亡した。	130201	2	30～ 49
		8	現場事務所内にて朝の打ち合わせ終了後、約150m先にある作業現場へ徒歩にて敷き鉄板の上を歩行中、現場事務所から約100m進ん			

2010	2	～	だ下り勾配の凍結箇所転倒し、頭部を強打したとみられる。被災日は他の労働者と同様に夕方まで作業を行い、帰宅後に痛みがあったため、受診して術を受けたが、10日後に死亡した。	30108	2	1～9
2010	6	～	被災者は、再委託事業者の労働者2名とともに、朝から高架橋の橋桁の点検作業を行っていた。昼になり、昼食のため現場を引き上げようと橋脚に設置された検査路に立ち入ったところ、同検査路の鋼製金網状床が錆びのため腐食しており、床を踏み抜き、およそ19m下のコンクリート製の橋脚台に墜落したものである。	170209	1	100 ～ 299
2010	7	～	被災者は、ガス充てん作業所内でハトを駆除するため、高さ約5mの所にある足場板で組まれた作業床上で、天井部付近に有刺鉄線を取り付ける作業を行っていたところ、何らかの原因で足場板から墜落して、頭部と胸を負傷した。直ちに病院へ搬送され、緊急手術を受け危篤状態でICUで経過を診ていたが、4日後に死亡した。	11602	1	1～9
2010	8	～	被災者は観光客送迎用バスの運転業務を行っていたが、観光客を宿に降ろして、バスを駐車位置に移動させた後、バスから100m離れた事務所に戻る途中、バスから22mの所で道路脇の川に転落し、死亡した。翌日、川底に倒れているのが発見された。	140101	1	1～9
2010	8	～	意識不明の状態保安室の仮眠室において被災者が倒れているのが発見され、病院に救急搬送され入院加療していたが、11日後に死亡したものの。転倒して側頭部を打撲したとみられる。	150101	2	10～ 29
2010	9	～	青果店において、商品発注のための作業を店外で行っていた被災者が店内に入ろうとした際、入口に敷いてあったマットの弛みに足を取られ、転倒し、右膝を骨折したため、医療機関で治療を受けた後、自宅で療養をしていたところ、7日後に血管が詰まったため倒れ、医療機関に搬送されたが、同日死亡した。	80209	2	1～9
2010	11	～	エコシステムの増築工事において、サッシの取り付け作業を行っていた。被災者は作業場所に向かう途中、雨水のたまった通路を避けようとし、通路わきの雨水ピット端のコンクリート天端を歩いていたところ	30201	10	1～9

		10	ろ、深さ約3.8mの雨水ピットに墜落し、溺れて死亡したものと推測される。			
2010	11	16 ~ 17	天井クレーン（つり上げ荷重20.5t）の横行用ブレーキ（約0.1t）を交換するため、ランウェイ点検用歩道上に設けられたテルハ（つり上げ荷重0.18t）を使用し、地上から歩道に設けられた開口部（450×1270mm）を通して歩道上に横行用ブレーキをつり上げたところ、横行用ブレーキを横切ってクレーンに乗り込もうとした被災者が開口部から15.5m墜落したものの。	11009	1	100 ~ 299
2010	12	16 ~ 17	鉄骨造2階建の事務所新築工事現場において、下請の労働者が、型枠材の解体作業中、1階の建物の中から型枠材を持って建物の外へ搬出しようとした際、出口でつまずいて転倒し、出口付近の基礎から上方に出ていた鉄筋（長さ約40cm）が、被災者の顔面に刺さり死亡したものの。	30201	2	1~9
2010	12	11 ~ 12	被災者は、上司2名と関係数社に年末の挨拶にまわっている途中、道路沿いの歩道を歩いていたところ転倒した。転倒の際に顔面と頭部を強打し、病院へ搬送されたが、頭部の負傷により約1週間後に死亡した。	11209	2	100 ~ 299
2011	10	15 ~ 16	被災者は、午前中は工場内で鉄材の錆び取り等の軽作業を行い、午後からは同工場内で製作されたバイオディーゼル燃料タンク5台（内容量1.9KL）を塗装するため、屋外の塗装場に搬送する作業に従事していた。2台目の搬送作業中に午後3時の休憩時間（15分）となった。午後3時8分頃、搬送作業中のタンクの傍らで倒れているのを通りかかった同僚が発見したもの。災害時の目撃者はいない。	11209	2	10~ 29
2011	8	16 ~ 17	被災者は、当日の配達等が終わって時間が余ったため、社長に申し出て会社所有の倉庫敷地内の草刈りを行っていたが、その後、何らかの理由で作業場所から約4m下の県道に墜落したものの。（現認者がいないため、被災者が倒れていた場所からの推測。草刈り機は墜落したと想定される場所から離れた所に置かれており、被災者の倒れていたそ	80204	1	1~9

			ばには殺虫剤の缶が落ちていた。)			
2011	1	9 ～ 10	屋内で新車のワックスコーティング作業を行っていた被災者がコンクリート床に仰向けに転倒して後頭部を強打。脳挫傷、頭蓋骨骨折により搬送先の病院で翌日死亡したもの。	170209	2	10～ 29
2011	10	8 ～ 9	トラックの荷台から落下した可能性のある積み荷（リサイクル缶等）を拾うため、走行中のトラックの荷台から降りようとしたところ、頭と顔面を地面に強打した。	11709	3	30～ 49
2011	2	13 ～ 14	被災者は牧場第1号厩舎へ牛に飼葉を与えに行ったが、通常の時間になっても戻ってこなかったことから、同僚労働者が第1号厩舎へ確認に行ったところ、意識混濁状態で鼻から血を流して歩いていたため、救急車により黒部市民病院に搬送、後頭部頭蓋骨骨折・脳挫傷により平成23年2月27日午前11時10分死亡するに至ったものである。	70101	2	1～9
2011	1	8 ～ 7	被災者は除雪用品売り場のスコップが少なくなってきたために、スコップの補充をしに農業資材コーナーに行った。その後、客から人が倒れているとの連絡があり、売り場に確認に行くと9尺の脚立の傍で被災者が倒れていた。病院に搬送される時は意識があり、病院に運ばれてからもしばらくは人とも会話できていたが、11時頃になって急変し緊急手術を受けた。それから意識は戻らず、2月5日に死亡したもの。	80209	2	100 ～ 299
2011	10	11 ～ 12	被災者はビル改修工事のうち、給水管の配管更新工事において、ビルの屋上に設置されたペントハウスの屋根上で高架水槽につながる管の設置作業を行っていた。午前12時ごろ昼休みを取るため、作業をいったん中断したあと、階下に戻る前に被災者は何らかの理由でペントハウスの端に行き、その際笠木部分から墜落したと推定される。	30203	1	10～ 29
2011	3	11 ～ 12	工場内で、製品出庫作業中、何らかの原因で転倒し、頭部を強打した。（右側頭部の打撲による硬膜下血腫及び脳挫傷、3月27日（日）午前10：30入院先の病院で死亡）6月17日労災支給決定。確定	10602	2	100 ～ 299

2011	6	22 ～ 23	被災者が建造ドッグにて建造中のブロックの取り付け作業を終え、協力会社の共有事務所内のロッカー室に帰る途中、工事中の水路に転落したものの。	11501	10	50～ 99
2011	8	9 ～ 10	被災者はグループホーム入居者からの呼び出しコールが鳴ったため、スタッフルームから走って居宅へ向かっていたところ、モップで水拭きした廊下で足を滑らせ転倒した際、後頭部を強打したものの。その後、被災者は8月30日7時1分に死亡した。	130201	2	30～ 49
2012	12	12 ～ 13	被災者は浴槽の窓を清掃中、誤って崖から（約40m）下に転落し、救急搬送先の病院で死亡した。	140101	1	50～ 99
2012	2	10 ～ 11	屋上におけるケーブルラックの敷設工事中、休憩をするため、被災者は屋上から屋内の2階へ続くケーブルの引き込み口から入り、約80cm下の梁を渡り、床に降りるため、更に梁から約80cm下の枠組足場（4スパン2段）を通ったところ、足場の床の端から約4m下のコンクリート床に墜落し、重傷頭部外傷で死亡した。	30201	1	10～ 29
2012	6	10 ～ 11	テナントビルにおいて、被災者はエレベーターホールの床をモップで清掃していたところ、足を滑らせ前方に転倒し、頭部および胸部、大腿部を床面に打ちつけた。なお、被災者は最寄りの病院へ行き、頭部の検査を受け打撲と診断されたが、大腿部に骨折の疑いがあるため精密検査を受けるよう指示を受け、翌日別の病院で検査を受けたところ、心臓に異状が認められ入院していたが、1週間後に様態が急変し死亡した。	150101	2	10～ 29
2012	5	17 ～ 18	被災者は業務を終了し、帰宅のため2F事務所の出入口から外部階段に通じる踊り場に出ようとしたところ、雨で濡れていたために転倒し、頸髄損傷により意識不明となり、救急搬送先の病院で死亡した。	30201	2	1～9
		7	被災者は工場増設工事にて工事関係車両の交通誘導等の警備業務に従事していた。被災当日、業務開始直後、工事で区画された歩行者通路			30～

2012	1	8	～	を歩いていたところ、凍結した路面で足元が滑り転倒、頭部を路面に強打し、救急搬送先の病院で死亡した。なお、被災当日の朝の最低気温は氷点下8度であった。	170201	2	49
2012	11	11	～	被災者は山林にて、立木を獣害から防護するための薬剤塗布の作業を終え、林道に停車している車まで帰る下山途中に、急峻な斜面から約40m下にある沢の河原まで滑落して意識不明となり、救急搬送された病院で死亡した。	60209	1	10～ 29
2012	11	1	～	化学工場において、配管からの漏えい対応作業においての転落事故。被災者らは、配管漏えい部分の調査確認と補修作業を行おうとしたが、漏えい箇所が作業用通路から離れていたため、応急措置として漏えい部分に吸引ホースを当てて仮固定することとした。調査確認に従事した2名のうち、1名がホース固定作業等を行っていたところ、近傍で待機していたもう1名の姿が見えなくなり、作業箇所の下方約10mの地面に転落しているのが発見された。	10899	1	50～ 99
2013	1	9	～	橋型クレーンの操作中、突然被災者が前のめりに倒れ、その際床にあった棒状の鉄板端材が顔面から突き刺さった。	11501	2	10～ 29
2013	1	17	～	被災者は、テニス練習場において、テニス指導員として中高生を対象にテニススクールのレッスンを行っていたところ、生徒の往復疾走に併走してバックステップをしていた際、後方から転倒し、頭部を激しく強打した。	140309	2	10～ 29
2013	10	14	～	ごみ収集車のブレーキランプを交換し、同僚作業者と車外で点灯状況を確認していたところ、ごみ収集車が路面の傾斜で後方に下がり、1. 5 m下の地面に転落した。その際、転落する車を寸前まで抑えていた被災者を同僚作業者が車から引き離れたが、被災者は足を踏み外して1. 5 m下の地面に墜落した。なお、車両には輪止めがなく、また、通常は敷地内の整備工場で当該作業を行うが、災害発生時は駐車場で行われていた。	40301	1	50～ 99



2013	7	13 ～ 14	被災者は、2階製造フロアにおいて、練り物製品の製造業務に携わっており、2階製造フロアで作業のためフライヤー横付近を歩いていたところ、足を滑らせ転倒し、頭部を床に強打した。	10102	2	10～ 29
2013	1	14 ～ 15	降雪のため工事現場に向かう林道が不通となったことから、同僚がトラクター・ショベルで雪かきを行っていたところ、被災者は雪かきを行っていた作業現場から少し離れた乗用車に向かって歩いている途中、アイスバーンとなっていた下り坂の道路で転倒し、頭部を負傷した。	30106	2	10～ 29
2013	9	6 ～ 7	被災者は、一人で新聞配達を行っていた。新聞配達を終え、自宅に帰る時間になっても被災者が戻らないため、家族や近所の人が同地内を捜索したところ、町道から約2m下の用水路の中で意識を失い倒れている被災者を発見した。被災者は発見後、救急搬送されたが、溺死により死亡が確認された。	80205	1	10～ 29
2013	1	4 ～ 5	雪と雨が混じったシャーベット状態の道路上を歩いて朝刊を配達していた際、滑って転倒し、後頭部を打った。	80205	2	30～ 49
2014	12	11 ～ 12	高さ約5メートルの箇所にて、コンベアの清掃作業を行っていたところ、墜落した。	20201	1	1～9
2014	11	9 ～ 10	警備作業中、対象店舗内の通路を歩行していたところ、転倒し、頭部を打撲し、死亡した。	170201	2	100 ～ 299
2014	11	8 ～ 9	屋根の防水工事中、同僚1名と被災者が足場の階段を使用し、地上から2階に登った際、先に登った同僚が足場2段目で下を見たところ、地上で被災者が倒れているのを発見した。被災者は頭部外傷により死亡した。尚、被災者は保護帽を着用していなかった。	30201	2	1～9
		21	車両規制をしていたカラーコーン等の撤去作業中、一般車両の進入を防ぐため、発煙筒を設置しようとして中央分離帯を歩き、移動していたと			30～

2014	7	～ 22	ころ、手摺りもなく開口部になっている箇所があり、その地点から 6. 89メートル下まで転落した。	170201	1	49
2014	7	11 ～ 12	ビルの解体工事現場にて、外部足場のタラップを使用し、地上に降り た際、躯体と外部足場のすき間に墜落した。	30209	1	1～9
2014	2	8 ～ 9	構内のドックサイドにて、ラジオ体操及び作業ミーティングを行った 後、ドック海側に設置された艀装棧橋に接岸した艀装船に移動するた め、ドックゲート上の通路を走行中、何らかの原因で転倒し、通路の 手すりの間から、ドック底（4. 4m）に墜落した。	11501	1	1～9
2015	10	11 ～ 12	被災者は、倒産したもやし工場を購入予定の顧客とともに工場内の水 回りの点検作業を行っていた。水回りの確認を行うため通路上（高さ 約3. 0m床材：エキスパンドメタル）を歩行中、床材（約0. 9m ×約0. 6m）ごと約3. 0m墜落し被災したものの。	30302	1	10～ 29
2015	3	14 ～ 15	被災者が自動車で現場内に仮設された作業用道路を移動中、崖下の雑 木林に転落し、車と地面との間に挟まれたもの。道路から転落した箇 所までは約10メートルであった。	30302	1	1～9
2015	4	15 ～ 16	キャベツの芯取り作業を行っていた被災者が、転倒した際に床に頭部 をぶつけた。帰宅後、病院を受診し頭蓋骨骨折で即時入院となった。 翌26日に脳内出血により意識不明となる。30日、0時40分頃死 亡したもの。業務上外について現在調査中である。	10109	2	100 ～ 299
2015	11	5 ～ 6	被災者は新聞を自宅周辺の地区13戸に徒歩で配達する業務に従事。 午前5時前に公民館に直行し、事業主により軒先ベンチに置かれた新 聞を受け取り配達する。いつも午前6時頃直帰するが当日は自宅に戻 らず、午前7時前に様子を見に行った被災者の妻が、公民館敷地内で 新聞を小脇に抱えたまま頭から血を流し倒れている被災者を発見し た。意識はなく病院で死亡確認。災害発生の目撃者はいない。	80205	1	10～ 29
			軽ワゴン車に配達用の新聞を積み込む作業をしていたところ、転倒			

2015	10	1 ～ 2	し、後頭部を床に打ち付けた。意識はあり、引き続き6時間ほど業務を行い、所定終了時刻にて退社。翌18日の朝になって吐くなどしたため、病院を受診したところ、そのまま入院となり、19日に手術が行われたが、21日に死亡した。	80205	2	50～ 99
2016	12	4 ～ 5	徒歩で新聞配達中の被災者が、道路（道路幅：約90cm）を移動していたところ、道路下（高さ約4.8m）の民家に転落して死亡した。	80205	1	1～9
2016	11	10 ～ 11	立体駐車場への車両誘導等の業務を行っていた被災者が、駐車場敷地内で転倒した際に脊髄損傷を発症し、当該疾病の療養期間中に、誤嚥性肺炎によって死亡した。	90209	2	10～ 29
2016	9	20 ～ 21	被災者は、毎月1回、社で開催される支店長会議に出席した。会議終了後、全員参加の懇親会に出席した後、自宅に帰る途中、駅のホームで転倒、床に頭部を打ち、病院に救急搬送された。搬送先の病院で入院、治療を受けていたが、約1週間後に死亡した。	170209	2	1～9
2016	8	14 ～ 15	太陽光発電システム設置工事において、パネルからの電線をケーブルホースに通す作業中、被災者がロープを引いたため、ケーブルの束の先端に繋いだロープが外れ、これにより被災者は倒れ、床面で頭部を強打し、脳挫傷による死亡が確認された。	30309	2	10～ 29
2016	7	9 ～ 10	出勤時、職員通用口へ向かう通路で滑って転倒し後頭部等を打った。打撲・擦り傷程度と考えていたが、5日後勤務中に気分が悪くなり倒れているところを発見され救急搬送されたが病院で死亡した。	140101	2	100 ～ 299
2016	5	13 ～ 14	反物の仕上げ作業中、仕上げ機械前の通路において、被災者が仰向けに倒れていたところを同僚が発見し、即日救急車で搬送されて入院治療を受けていたが、当該災害発生後から約3ヶ月経過した8月17日に入院先の病院で死亡した。	10204	2	10～ 29
2016	1	4 ～	被災者は、新聞配達の仕事終了後、自宅に帰り、朝食を取って寝ていたところ、突然頭の痛みを訴え、「配達中に転んだ」と伝えた後、呂律が回らなくなり、病院搬送され手術を受けたが、そのまま亡くなっ	80205	2	1～9

		5	た。			
2016	1	13 ～ 14	水産加工場内の設備工事。昼休憩が終わり、作業場所である水産加工場3階へ向かうために階段を上っていたところ、1階と2階の間にある踊り場の端（幅1.75m、地上高さ2.3m）から墜落した。	30309	1	1～9
2016	1	5 ～ 6	新聞配達のため、町道を歩いていた際、転倒し、頭部を負傷し死亡した。	80205	2	30～ 49
2017	12	8 ～ 9	民家の解体工事において、廃材をキャリー（ハンドガイド式の運搬車）に乗せて置き場へ運搬していた被災者が、頭部を負傷し道路に倒れているところを発見された。	30202	2	1～9
2017	12	20 ～ 21	調理師である被災者は、事業者の運営する飲食店での業務を終え、同事業者の所属事業場へ徒歩で移動中、路上で倒れているところを通行人に発見され、救急搬送されたが死亡した。被災者が倒れていた路上は凍結して滑り易くなっていた。	140101	2	100 ～ 299
2017	7	14 ～ 15	コンクリート殻の搬出を終えて現場に戻った被災者（ダンプ運転者）が、現場内を歩いていたところ、ヤード内に置いてあった鉄網付近で転倒し、頭を強打して首を損傷した。	30106	2	10～ 29
2017	2	14 ～ 15	午後2時30分頃、被災者が5階ロッカー室のソファで意識のない状態で発見され、救急車で病院に搬送されるも、9日後に死亡した。死因は後頭骨骨折、脳挫傷であり、被災者が就労施設内のどこかで転倒したものと推定される。	140101	2	100 ～ 299
2017	2	16 ～ 17	下水道工事現場において、町道を走行するドラグ・ショベルの土場までの交通誘導を終え、町道を歩いて下水道現場に置いてある車に戻る途中に、何らかの理由で倒れた。倒れていた被災者は誘導旗の棒の先端が右目を貫通している状態で発見された。歩行中、町道の側溝の取手穴に躓いて転倒したものと推定される。	170201	2	30～ 49
		6	車で朝刊配達中、足がつり足の動きが悪くなってきたため、車外に出			

2017	1	7	て配達の手伝いを求めてアスファルト製の道路上で待っていたところ、転倒して頭部を打ち2日後に死亡した。	80205	2	10～ 29
2018	10	8 9	廃プラスチックの収集運搬作業中、集積所へ向かう途中、坂道でつまづき近くの電柱に体を支えようとしたが支えきれず前向きに転倒し顔を強打したものの。後日、死亡が確認されたもの。	40301	2	30～ 49
2018	10	14 15	マンション大規模修繕工事において、足場の組み立て作業中、地上からウインチで吊り上げられた建柱（600柱）4枚（約50kg）を受け取り、架設通路上を移動中に17層目（高さ約30m）から建柱と共に地上に墜落したものの。	30309	1	1～9
2018	10	4 5	被災者は、地上約12メートルの位置に運転席があるクレーンの運転手であるが、詰所で休憩後、作業再開するため、運転席に戻る際、運転席に通じる歩道から約12メートル下方のアスファルト路面に墜落した。	11001	1	100 ～ 299
2018	9	14 15	発電所の下流約500mの連合用水路内の左岸側壁部の修繕工事の準備のため、一輪車に約20kgの発電機を積載し用水路脇の巡視路と呼ばれる路を被災者と外国人労働者2名の3名で交替しながら運搬。被災者に交替し数メートル運搬した後、誤って巡視路から用水路（高さ3m、深さ1m）に発電機、一輪車と共に墜落したものの。墜落推定箇所の巡視路の幅は2.8メートルで柵が無い状態であった。	30199	1	1～9
2018	9	16 17	公園内での剪定及び伐採作業の片付けを行っていた際、歩行中に前方向に転倒した。（4日後に腹部の痛みを訴え、救急搬送された病院では脾臓損傷と診断され、入院の10日後に死亡した。）	60101	2	1～9
2018	7	16 17	請け負った冷蔵室の扉取付け工事が終了後、脚立の真下で倒れている被災者を同僚が発見。後日脳挫傷により搬送先の病院で死亡した。被災者は、脚立の下で屈んで施工箇所の最終チェックをした後、立ち上がろうとしたとき、後頭部を脚立の脚の角度を保つための金具に激突した弾みで、コンクリート製の床面に倒れ、顔面を強打したものの。保	30302	2	1～9

			護帽未着用。			
2018	6	14 ～ 15	木造2階建てアパートの解体工事を行っていた。事業場代表及び作業員3人で作業を行っており、作業員は建物内部1階の内バラシ作業を、代表は解体用機械を使用して、アパート2階の屋外通路部分を解体していた。午後2時頃、半分残していた屋外通路が突然落下し、被災者は落下したコンクリート床（推定重量425kg）に右足を挟まれ、右足関節解放骨折、右大腿骨骨折、骨盤骨折を負い、後日搬送先の病院で死亡。	30202	4	1～9
2018	3	10 ～ 11	マンション新築工事において、三次下請事業場所属の労働者が、14階において、部材を運ぶため、高さ19センチの台車に部材を乗せ、当該台車を押しつつ低姿勢で移動していたところ、同階の躯体端より地上まで墜落した。躯体端の手すりの隙間からすり抜け、墜落したものと推測される。	30201	1	1～9
2018	1	20 ～ 21	工場内の計器の巡視作業を行っていた被災者が、通路上の開口部より15m下に墜落した。災害発生当日、工場内では機械の据付作業を行っており、設備担当者が機械の搬出入のため通路の床（グレーチング）を取り外して作業を行い、当該グレーチングを復旧しなかったため、グレーチング撤去後の箇所は開口部（99cm×104cm）となっていた。なお、開口部の周囲に立入禁止等の墜落防止措置は講じられていなかった	150102	1	50～ 99
2018	1	4 ～ 5	新聞配達中の被災者が、生活道路上（斜度：約10度）を徒歩で移動中に転倒して頭部を強打したもので、入院加療を行ったが、急性硬膜外血腫のため、死亡したものである。	80205	2	30～ 49
2019	10	12 ～ 14	下水道工事現場に近接する道路上で転倒し、後頭部を強打した。	30110	2	10～ 29
		16	営業業務から帰社し、当日夜間に現場で使用する機械の運搬について業者と打ち合わせた後、ふらふらし始めバランスを崩し転倒した。転			

2019	10	～ 18	倒時コンクリート面に後頭部を打ち付け、硬膜外血腫により死亡した。	30106	2	1～9
2019	6	～ 14	インク製造棟内作業場のコンクリート床で、頭部から出血し、あおむけで卒倒している状態の被災者が発見された。外傷性くも膜下出血、脳挫傷、急性硬膜下血腫と診断され、事故3日後に死亡が確認されたもの。	10808	2	10～ 29
2019	5	～ 16	客先の施設にある配電盤の点検作業を請け負う労働者が、設備3階にある配電盤の設置場所に向かっていたところ、床材（鉄板）を踏み抜き、約8m墜落した。当該箇所は錆びて腐食していたため、ロープで立ち入り禁止措置が講じられていた。	30301	1	1～9
2019	2	～ 20	大学構内で被災者が血を流して倒れているところを通行人が発見した。墜落箇所の真上には、校舎外階段の8階踊り場に、工事に屋上に上がるための架設通路が設置されていた。なお、当該通路に手すりや中さんは設けられていた。	30203	1	10～ 29
2019	1	～ 8	午前頃、顧客から当該給油所が営業していない旨の連絡があり、担当者が当該事業場に駆け付けたところ、被災者は頭から血を流した状態で監視室の椅子に座り、意識を無くしていた。救急車で搬送されたが死亡が確認されたもの。現場の状況等から、被災者はガスリンスタンドの駐車場の前で転倒し、頭を打ったものと推定される。	80204	2	1～9
2020	11	～ 24	補修工事を終えた道路の警備をしていた被災者が、勤務時間中に転倒し、路面に後頭部を打ち付けて死亡した。	170201	2	10～ 29
2020	11	～ 6	新聞配達中に歩道上で倒れていたところを通行人に発見され、救急搬送された。「脳挫傷」、「急性硬膜外血腫」と診断され治療を受けていたが、翌日死亡した。	80205	2	10～ 29
2020	9	～ 8	水産食料品を製造する工場内において、高温高圧殺菌用圧力容器の配管（塩ビ管、内径40mm）のうち、高さ2.25mの位置にある逆	30302	2	1～9

		10	止弁の取り替え作業を行っていたところ、心肺停止状態で床面に倒れているところを発見されたもの。			
2020	7	14 ～ 16	工場内で体調が悪くなり、倒れた際に、頭部を工場内設備に激突し、急性硬膜下血腫を併発したもの。	11203	2	10～ 29
2020	5	22 ～ 24	セルフ式ガソリンスタンドで勤務する労働者が、同敷地の南西側に隣接する深さ1.1メートル、幅61センチメートルの側溝に墜落し、死亡したもの。	80204	1	1～9
2020	5	14 ～ 16	チラシを積み込んだかご車に、荷崩れ防止用のバンドを2本掛け、バンドに足を掛けてバンドを締める作業を2名で行っていたところ、かご車が後方に倒れ、被災者はかご車とともに転倒し、床に頭を強打した。被災者は病院に収容されたが、2日後に脳内出血のため死亡した。	10709	2	300 ～ 499
2020	4	14 ～ 16	被災者が休憩室内の休憩スペースからトイレ間の通路で倒れ後頭部を強打した。翌日休憩室内の当該場所で倒れている被災者を見出し、病院へ救急搬送されるも、後日死亡した。	140101	2	100 ～ 299
2020	3	10 ～ 12	被災者と同僚が客の方へ向かうため事業場内の通路を歩行中、被災者の前を歩いていた同僚が後方から名前を呼ばれたので振り返った際、すぐ斜め後ろを前進していた被災者が同僚の左上腕部に胸部を打ち付けられ、通路に強く尻もちをついた。搬送された病院で大腿骨骨折と診断され、6日後に手術を受ける予定で入院したが、2日後に骨折箇所の内出血が悪化し、出血性ショックにより死亡した。	80109	3	1～9
2020	1	20 ～ 22	被災者は、設備の保守点検のためのパトロールを1人で行っていたが、ベルトコンベアの近くで倒れているところを、他の作業員に見された。	11601	1	100 ～ 299



Return to [https://www.jisha.or.jp/international/topics/202206\\_05.html](https://www.jisha.or.jp/international/topics/202206_05.html)